

- 問1 世界の海上交通の要所であるスエズ運河の地理的特徴について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 神奈川県公立入試 類似)
1. エジプトに位置する運河で、地中海とインド洋を直接繋ぐことにより、ユーラシア大陸を横断する手間を省いた。
 2. トルコに位置する海峡を利用した運河で、黒海と地中海を繋ぐことにより、ヨーロッパ内陸部への輸送を可能にした。
 3. パナマに位置する運河で、大西洋と太平洋を繋ぐことにより、南アメリカ大陸を回る航路の短縮を可能にした。
 4. エジプトに位置する運河で、地中海と紅海を繋ぐことにより、アフリカ大陸を大きく回る航路の短縮を可能にした。
- 問2 北アフリカの地中海沿岸に位置する都市の統計において、気温が7月ごろにピークを迎え、6月から8月の降水量が極端に少なく、冬の時期に一定の降水が見られる気候が確認されました。この都市で見られる農業の特色として最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2016年 福岡県公立入試 類似)
1. 降水量が極めて少なく樹木が育たないため、わずかな草が生える地域で羊の放牧が行われている。
 2. 夏の豊富な降水を利用して、平野部を中心に稲作が大規模に行われている。
 3. 一年を通して高温多湿であるため、天然ゴムや 카카오 のプランテーションが作られている。
 4. 夏の乾燥に強いオリーブやぶどう、オレンジなどの果物栽培が盛んに行われている。
- 問3 ウガンダにおける2004年から2018年の米の生産状況について、収穫面積は約9万ヘクタール前後でほぼ横ばいである一方、生産量は約12.1万トンから約24.6万トンへと約2倍に増加しています。このデータから読み取れる、ウガンダの農業における変化として最も適切な説明はどれですか。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
1. 気候変動の影響で、収穫面積あたりの収穫量が減少した
 2. 土地あたりの生産性が向上した
 3. 収穫面積の大幅な拡大により増産に成功した
 4. 米から他の作物への転換が進み、収穫面積が減少した
- 問4 サバナ気候に見られる「自然環境」と、それに関連する「観光業」の仕組みについての説明として、背景や因果関係が正しく述べられているものはどれですか。 (2021年 広島県公立入試 類似)
1. 乾燥した気候が続くため、森林が育たず砂漠化が進んでいるが、その過酷な環境を体験するアドベンチャーツアーが人気を集めている。
 2. 一年中高温多湿であるため、多様な植物が生い茂るジャングルが形成され、貴重な熱帯の鳥類を観察する観光施設が整備されている。
 3. 短い夏にだけ草が成長するツンドラ地帯であり、トナカイなどの家畜とともに移動する遊牧民の生活を見学するツアーが中心である。
 4. 雨季と乾季という周期的な降雨の変化によって広大な草原が維持され、そこを餌場とする野生動物が集まるため、野生動物観察を目的とした観光が成立している。
- 問5 コートジボワールのカカオ豆やエチオピアのコーヒー豆のように、特定の製品の輸出に依存する経済からの脱却を目指すアフリカの国々が取り組んでいる、将来に向けた対策としてふさわしいものはどれですか。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
1. 外国からの投資を制限し、伝統的な農業のみに専念する自給自足体制を構築する。
 2. 農産物の加工や工業化を進め、産業の多角化を図る。
 3. 国際価格が下落した際に、すべての輸出を停止して国内在庫を増やす。
 4. 輸出する品目の種類をさらに絞り込み、特定の資源の生産効率を最大化する。
- 問6 アフリカ大陸を北端から南端まで移動したと仮定した場合、観察される気候帯の変化を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 岩手県公立入試 類似)
1. 北端から南端まで一貫して降水量の多い温帯が続き、大陸内部に砂漠や乾燥した地域は見られない。
 2. 大陸の全域が熱帯に属しており、どの地域に移動しても密林や草原が広がる景観に変化はない。
 3. 北端の寒帯から始まり、南下するにつれて徐々に気温が上がり続け、南端で最も気温が高い熱帯となる。
 4. 北端の温帯から始まり、サハラ砂漠の乾燥帯、赤道付近の熱帯を経て、再び乾燥帯、南端の温帯へと変化する。
- 問7 アフリカ大陸の北端にあたる地中海沿岸地域では、夏は高温で乾燥し、冬に一定の降水がある気候の特色を活かした農業が行われています。夏には乾燥に強いオリーブやブドウなどの樹木作物を育て、冬には小麦を栽培するこの農業の名称を何といいますか。 (2015年 富山県公立入試 類似)
1. 焼畑農業
 2. プランテーション
 3. 地中海式農業
 4. オアシス農業
- 問8 アフリカの国々で見られるプランテーションと呼ばれる農園について、その歴史的背景や産業上の特徴を正しく説明しているものはどれですか。 (2016年 三重県公立入試 類似)
1. 大都市の周辺に位置し、新鮮な野菜や果物を消費地に向けて効率的に生産・供給する農業である。
 2. 独立後の食料不足を解消するために、自国消費用の穀物を育てることを主目的とした小規模な農地である。
 3. 森林を焼き、その灰を肥料として利用しながら数年ごとに栽培場所を移動する伝統的な農業形態である。
 4. かつての植民地支配のもとで、特定の農作物を輸出するために大規模に開発された農園である。
- 問9 1950年から2100年までの世界各地の人口変化と将来予測に関する統計において、1950年に約2.2億人であった人口が、2050年には約24.8億人、2100年には約42.8億人に達すると予測され、他の州を上回る圧倒的な伸びを示している地域はどこですか。 (2022年 島根県公立入試 類似)
1. ヨーロッパ州
 2. 南アメリカ州
 3. アジア州
 4. アフリカ州
- 問10 アフリカのナイジェリア付近の都市における気象データでは、月平均気温が年間を通して約26度前後で安定している一方、4月から10月までは降水量が多く、11月から3月までは極端に雨が少なくなります。このような気候的特徴を持つ地域に広がる景観の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 徳島県公立入試 類似)
1. 乾季の影響で樹木が密集できず、背の高い草の草原に低木が混じる景観。
 2. 降水量が極めて少なく植物の成長が困難なため、砂や岩石が露出した景観。
 3. 夏が短く冬の寒さが厳しいため、エゾマツなどの針葉樹が広がる景観。
 4. 一年中高温多湿であるため、多種類の常緑広葉樹がうっそうと茂る景観。
- 問11 日本の標準時子午線(東経135度)を基準としたとき、東経30度付近に位置するアフリカ東部の地域と、他の地域との時差の関係を説明した文として、適切なものはどれですか。 (2023年 愛知県公立入試 類似)
1. アフリカ東部と日本との経度差は約105度であり、本初子午線が通るヨーロッパや、西半球にあるアメリカ大陸の地域よりも日本との時差は小さい。
 2. アフリカ東部は赤道に近い低緯度地域であるため、高緯度にあるヨーロッパやアメリカ大陸の地域よりも、経度による時差の影響を強く受ける。
 3. アフリカ東部は本初子午線から東に離れているため、東経135度の日本との経度差は、西経100度付近のアメリカ大陸の地域よりも大きくなる。
 4. アフリカ東部は日本と同じ東半球に位置しているため、緯度に関わらず、西経の地域よりも日本との時差は必ず大きくなる。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 エジプトに位置する運河で、地中海と紅海を繋ぐことにより、アフリカ大陸を大きく回る航路の短縮を可能にした。	スエズ運河は、アフリカ大陸とユーラシア大陸の接点付近にあるエジプトの領土を貫通し、地中海と紅海を連結しています。これにより、船舶はアフリカ大陸南端を経由することなく、インド洋から紅海、スエズ運河、地中海を通してヨーロッパへ到達できるようになりました。パナマ運河は大西洋と太平洋を結ぶものであり、スエズ運河とは場所も役割も異なります。
問2	答え 4 夏の乾燥に強いオリーブやぶどう、オレンジなどの果物栽培が盛んに行われている。	気温が7月に高く、その時期に降水量が極端に少ないという特徴は、北半球の地中海性気候であることを示しています。この気候下では、乾燥する夏に適応した「硬葉樹」と呼ばれる葉の硬い樹木や、耐乾性のある果物の栽培が行われる地中海式農業が発達しています。稲作は夏の水分が必要であり、カカオは熱帯、放牧（ステップ気候）は乾燥帯の説明です。
問3	答え 2 土地あたりの生産性が向上した	収穫面積が約9万ヘクタール前後でほとんど変わっていない（あるいは微減している）にもかかわらず、生産量が約2倍に増えているということは、同じ面積の土地からより多くの収穫が得られるようになったことを意味します。これは、品種改良や肥料の導入、灌漑施設の整備などの技術革新によって、土地あたりの「生産性」が高まったことを示しています。
問4	答え 4 雨季と乾季という周期的な降雨の変化によって広大な草原が維持され、そこを餌場とする野生動物が集まるため、野生動物観察を目的とした観光が成立している。	サバナ気候における観光業の成立には、特有の降雨パターンが深く関わっています。雨季に成長する草が広大な草原（サバナ）を作り、それを食料とする草食動物と、それらを追う肉食動物からなる生態系が構築されます。見通しの良い草原は、密林に比べて野生動物を発見・観察しやすいため、世界中から観光客を惹きつけるサファリツアーの舞台となります。これは気候・植生・動物・産業が密接に結びついた事例です。
問5	答え 2 農産物の加工や工業化を進め、産業の多角化を図る。	モノカルチャー経済の不安定さを解消するためには、特定の一次産品だけに頼るのではなく、国内で製品を加工して付加価値を高めたり、新しい工業やサービス業を育成して「産業の多角化」を進めたりすることが、経済の安定に不可欠な課題となっています。
問6	答え 4 北端の温帯から始まり、サハラ砂漠の乾燥帯、赤道付近の熱帯を経て、再び乾燥帯、南端の温帯へと変化する。	アフリカ大陸は赤道を挟んで南北に広がっているため、気候帯が帯状に分布しています。地中海に面した北端や、南アフリカ共和国などの南端には比較的温暖な温帯（地中海性気候など）が見られ、その内側に乾燥帯、さらに大陸中央の赤道付近には熱帯が位置しています。このように、緯度に応じた規則的な変化が見られるのが地理的な特徴です。
問7	答え 3 地中海式農業	地中海性気候（Cs）の特性を最大限に活かした農業形態です。夏に雨が極端に少ないため、水分の蒸発を防ぐ仕組みを持つオリーブやブドウなどの樹木作物が適しており、比較的雨の降る冬に主食となる小麦を栽培するというサイクルが成立しています。
問8	答え 4 かつての植民地支配のもとで、特定の農作物を輸出するために大規模に開発された農園である。	プランテーションは、植民地時代に支配国が自国への輸出を目的に、安価な労働力を使ってカカオやコーヒーなどの「商品作物」を大量生産するために作った仕組みです。このように特定の農産物や資源の輸出に頼る経済構造は「モノカルチャー経済」と呼ばれ、国際価格の変動によって国の経済が不安定になりやすいという課題を抱えています。
問9	答え 4 アフリカ州	世界の将来人口予測において、最も顕著な増加傾向を示しているのがアフリカ州です。20世紀半ばから21世紀末にかけて、他の州と比較して圧倒的な人口急増が続くと予測されており、世界の人口構成に大きな影響を与えるとされています。
問10	答え 1 乾季の影響で樹木が密集できず、背の高い草の草原に低木が混じる景観。	気温が一定して高い熱帯でありながら、明確な雨季と乾季のサイクルがあることが特徴です。雨季には草が成長しますが、数ヶ月続く乾季には水分が不足するため、熱帯雨林のように高い木が密生することはできません。その結果、乾燥に耐えられる低木と草原が組み合わさったサバナの景観が作られます。
問11	答え 1 アフリカ東部と日本との経度差は約105度であり、本初子午線が通るヨーロッパや、西半球にあるアメリカ大陸の地域よりも日本との時差は小さい。	日本の標準時子午線は東経135度です。これに対し、アフリカ東部（東経30度付近）との経度差は105度（135－30）となり、時差は7時間です。一方で、ロンドンなどの本初子午線（0度）が通る地域との経度差は135度（時差9時間）、さらに西経100度付近のアメリカ大陸の地域との経度差は235度（135＋100）となります。したがって、アフリカ東部は地理的に日本との経度差がこれよりも小さいため、時差も小さくなります。